横山大観 大気を描く

佐野美術館創立50周年・三島市制75周年 記念

平成28年 10月1日(土)～11月6日(日)

～担当学芸員・河内えり子さんが語る展覧会の見どころ～

平成28年秋、佐野美術館では企画展「横山大観　大気を描く」を開催します。
明治・大正・昭和と長きに亘り活躍し、近代日本画壇の重鎮として確固たる地位を築いた日本画家・横山大観(1868-1958)。気韻溢れる数々の名作は、今なお色褪せず多くの人々を惹きつけています。静岡県では久しぶりの回顧展となる本展。見どころを河内学芸員に聞きました。

≪不盡之高嶺≫
大正4年(1915)　平塚市美術館蔵

横山大観はどのような人物ですか?

河内　明治元年、茨城県に水戸藩士の長男として生まれました。英語学校在学中から絵に興味を持ち始め、父親の反対を押し切って入学した東京美術学校(現東京藝術大学)で本格的に日本画を学び、岡倉天心や橋本雅邦らの指導のもと頭角を現しました。

どんな人柄だったのですか?

河内　明るく大らかな性格で、信頼する人の為なら助力を惜しまない面倒見のいい人だったようです。また、昼間自宅に訪ねてきた客人にお茶の代わりにお酒を振る舞うほど好み、晩年病に倒れた際もお酒を飲んだら元気になった、という逸話があるほどです。動物好きでもあり、旅行先の中国で気に入ったロバを日本に連れて帰ってきたこともあります。

作品の魅力は何だと思いますか?

河内　大観の作品は精神性の深さと高い品格を備え、また作者の人柄がうかがえるような朗らかさや大らかさがあります。大胆な画面構成も特徴の一つです。自由で革新的な構図や画法を生み出す発想力やセンスは、若い頃から一目置かれていました。

70年の画業の中で、大切にしていたことはありますか?

河内　大観は師である雅邦から、まずそのものを見なさい、と教えられたそうです。全て頭の中に記憶するまで見る。それから描く。どうしても筆が止まってしまったらもう一度見返す、と。大観は生前「心によりて筆生ず」などと、周りの人に説いて聞かせていました。心の内に一旦しまって、そこから湧き上がった気持ちを大事に絵を描いたのだと思います。

河内さんの好きな作品は何ですか?

河内　いくつかあるのですが、例えば夏の富士を描いた「不盡之高嶺」や「群青富士」です。私の通勤途中に富士山がとても綺麗に見える所があります。富士山というと雪の積もった冬のイメージが強かったのですが、ある時雪が溶けて山肌が現れた鮮やかな青富士が見えました。それまで日本画の青富士を見て、実際こんなに青い色なのかと疑問に感じていたのですが、その時改めて「こんなに美しい青だから、画家は群青色の絵具で表したくなるのだ」と、画家の気持ちが少しわかったような気がして嬉しくなりました。それから日本画家の描く青富士が好きになりました。

生涯に2千点もの富士を描いた大観。なぜ富士を題材に描くようになったのですか?

河内　姿かたちが美しいことはもちろんですが、それ以上に日本人の精神の象徴としての富士に惹かれたのではないでしょうか。日本人にとっての美の極みである富士を、画家として目指すべき頂きと捉え、自身の心を映す鑑として描き続けていたのだと思います。

どんな点に着目すると、展覧会をより楽しめますか?

河内　大観の作品はスケールの大きな作品も多いのですが、よく見るとその中の小さな人間の表情や動物の仕草などが愛らしいのです。気宇の大きさと細かな部分にも行き届いたところ、その両方が楽しめる。そんなところからも作者の豊かな人間的魅力が伝わってくると思います。

晩年の大観は健康を考え、お酒にお湯を加えて飲んだ

(構成・事務局　遠藤)

ミューズクラブ会員募集中

●正会員:1万円　●ゴールド会員:2万円　●特別会員:10万円
ミューズクラブでは会員を随時募集しています。
年間パスポートの発行やショップでの買物1割引、会員限定イベントの開催など様々な特典があります。
詳しくはミューズクラブ事務局(TEL055-975-7278)までお問合せください。

新規入会者(平成28年4月1日～)
ゴールド会員　志田洪顕
正　会　員　鈴木広美、諏訪久美子、土屋友房、星合義弘、若月隆一
※敬称略、50音順

Number 18 2016.09
佐野美術館賛助会ミューズクラブ会報　ミューズ交歓
2016年9月号／第18号
発　行　日／平成28年9月1日　編集・発行／佐野美術館賛助会ミューズクラブ
〒411-0838　静岡県三島市中田町1-43　TEL:055-975-7278　FAX:055-973-1790　ホームページ:http://www.sanobi.or.jp

佐野美術館賛助会ミューズクラブ会報

ミューズ交歓

佐野美術館と皆さまをつなぐ

Number 18 2016.09
Muse Club Magazine
SANO ART MUSEUM

イベント情報 EVENT

平成28年度下半期　活動予定

歌舞伎座鑑賞　日帰りバス旅行

日　　程　平成29年1月のいずれか1日
時　　間　7:00～20:00
会　　費　会員30,000円／一般35,000円
定　　員　49名(要申込)
演　　目　壽初春大歌舞伎
　　(昼の部11:00～16:00、1等席、お弁当付き)

※会員の皆さまはイベントチラシをご確認の上お申込み下さい。
　日程や申込方法など詳細は開催日の約2ヶ月前に郵送でご案内します。
※会員のお連れ様であれば、一般の方もお申込みいただけます。

明治22年、東京銀座に歌舞伎専用の劇場として開場した歌舞伎座は、近年老朽化の問題やバリアフリーの必要性から立て替えが行われ、約3年間の改修期間を経て平成25年3月に新しく生まれ変わりました。
この度ミューズクラブでは、平成26年度につづき2回目の開催となる歌舞伎座での観劇旅行を実施します。1月の壽初春大歌舞伎は、おめでたい演目と豪華な役者陣が出揃う新春にふさわしい華やかな舞台です。歌舞伎座でしか味わえない芝居見物の魅力を一等席でご堪能下さい。

平成28年度下半期　活動予定

イベントスケジュール

EVENT
イベント
情報

平成28年度下半期に開催されるイベントをご紹介します。お気軽にご参加下さい。

十三夜の宴（じゅうさんやのうたげ）

日　　程　平成28年10月13日（木・休館日）
時　　間　17:00開場／17:30開宴
会　　費　会員3,000円／一般5,000円
定　　員　約100名（要申込・先着順）
会　　場　佐野美術館庭園内「隆泉苑（りゅうせんえん）」
　　（雨天の場合は佐野美術館１階ロビー）
出　　演　BULAN4
　　宮野寛子（Pf）、tomoca（Ob）、服部恵（Perc）、
　　小泉ちづこ（バリ舞踏）

※会員のお連れ様であれば、一般の方もお申込みいただけます。

十三夜の月と美しい音楽を愉しむ演奏会「十三夜の宴」。今年の出演者はアジアン音楽を中心とした無国籍なサウンドと、バリ舞踊を取り入れたパフォーマンスが魅力のユニット「BULAN4」です。国の登録有形文化財「隆泉苑」の庭園を会場とした特別な空間で一流の演奏をお楽しみいただきます。演奏終了後はささやかですが、温かいお料理やお酒、抽選会などをご用意しております。

館蔵品特別鑑賞講座
～日本刀編～

日本刀は鞘（さや）や鐔（つば）の装飾ばかりでなく、刀身自体が美術的価値をもつ世界でも稀有な工芸品であり、また日本人の精神の象徴として尊ばれてきました。佐野美術館の創立者である実業家・佐野隆一は、刀剣収集に力を入れ、技術者の眼から良質な日本刀コレクションを形成しました。今回の館蔵品特別鑑賞講座は、刀剣鑑賞の基礎を分かりやすく解説すると共に、収蔵品の日本刀に実際に触れて日本人の美意識や心を学びます。

日　　程　平成28年12月23日（金・祝）
時　　間　14:00～16:00
会　　費　1,000円（会員／一般）
定　　員　20名（要申込・先着順）
会　　場　佐野美術館庭園内
　　「隆泉苑」

※会員のお連れ様であれば、
　一般の方もお申込みいただけます。

イメージ

MUSE 招待席 “さのびと私”

まずは、佐野美術館創立50周年、おめでとうございます。

さて、我が家の客間に「刀剣教室中級修了証」が掛けてある。母が生前、額に入れて大事に飾ってくれたものだ。さのびとのお付き合いはかれこれ30年以上になる。家に父の形見となった刀があるが、手入れの仕方がわからない。ある日新聞に刀剣教室の案内が載ったのですぐに申し込んだ。以来、渡邉妙子現館長のご指導のもと、手入れだけでなく、広く鑑賞の仕方を学んだ。さらにそれがきっかけとなって美術全般に興味が広がり、足繁くさのびに通うようになり、今や私の第一の趣味は美術館巡り、好きな画家はマネ、座右の書は高階秀爾著「名画を見る眼」となるに至っている。定年後は友の会の日本画部と陶芸部で作品作りに勤しんだが、今は時間が取れず休止している。美術展は毎回必ず、またミューズクラブ主催の十三夜の宴や歌舞伎鑑賞旅行などの行事にも都合がつく限り参加している。

もともと美術が好きで小中学校でもらった賞状は絵や彫刻ばかり。時間が許せば創作に打ち込みたいところであるが今はそれができない。しかしそれでも自分の人生は豊かであると感じているし、その豊かさは紛れもなくさのびとのお付き合いから生まれたものである。感謝、感謝。

伊豆の国市議会議員・ゴールド会員
梅原秀宣

平成28年度上半期　活動報告

イベントレポート

佐野美術館賛助会ミューズクラブ会報
ミューズ交歓
佐野美術館と皆さまをつなぐ

平成28年度上半期は、2つのイベントが開催されました。

会員のつどい

日　　程　平成28年4月29日（金・祝）
時　　間　15:00～18:00
参加人数　47名

会員のつどいは総会にあたります。事業報告と新年度の計画が説明されました。新年度も魅力的なイベントが続きます。

定例となっている落語の会ですが、余興というより記念文化事業というべきでしょう。今年は柳家小太郎さんの噺を楽しみました。

一席目は知ったかぶりの男に名物「ちりとてちん」と言って腐った豆腐を食べさせる噺。NHKの同名連続TV小説には落語家が登場するところが関係があるか…。

二席目は「あたまやま」。花見に行ってサクランボを食べ過ぎて頭に桜が生える。大勢の人が花見に来てうるさくて仕方が無いので苦労して引っこ抜くと大きな穴が空く。そこに水がたまりボウフラが湧いて、魚が棲んで人々が魚つりを始めて…。4次元の世界でした。面白かったです。

懇親会は楽しくゆっくり懇親を深めました。

（ミューズクラブ運営委員　小林俊）

芸術鑑賞日帰りバス旅行

日　　程　平成28年5月12日（木）
時　　間　7:00～19:00
参加人数　48名

恒例の「芸術鑑賞日帰りバス旅行」、今年度は何と“文楽”と“根津美術館＝特別展＝”。薫風の朝、皆にこやかに乗り込み和やかな雰囲気のバスは一路根津美術館へ。緑鮮やかな庭を眺めつつ担当学芸員の方のわかり易いギャラリートークの後、“尾形光琳の国宝燕子花図屏風”他を見学。広東名菜“富徳”で昼食後国立劇場へ。文楽鑑賞教室の小冊子が配布され「文楽の魅力」の解説を聴き予備知識を携え小劇場に。実演を交えた解説の後いよいよ“曽根崎心中”鑑賞。文楽の魅力をたっぷり楽しませていただきました。

また、Maria's Babies Societyの園児9名が3名の引率者の説明を聞きながら尾形光琳の作品をじっくり鑑賞している場面、身を乗り出して熱心に文楽を鑑賞していた小グループの地元中学生の様子等を目の当たりにし、これまで以上に地方都市の美術館の存在の有難さ・啓蒙活動の必要性を痛感した1日でもありました。

（ミューズクラブ運営委員　堅田淳子）

根津美術館

参加者の声

- 尾形光琳の燕子花図屏風、圧倒的な迫力でした。文楽も初めてしっかり観られ、生命を吹き込まれた様な人形の動きに引き込まれ、感動を覚えました。
- お昼が少々慌ただしく感じました。でも美味しかったです。
- 次回はバレエやオペラ観劇などいかがでしょうか。